

2009年3月21日発行

# エコ・リサ通信 第66号

特定非営利活動法人 埼玉エコ・リサイクル連絡会広報

## 交流集会2009ダイジェスト -3Rでまちづくり-

2009年2月19日(木)、さいたま市文化センターに於いて「エコ・リサイクル交流集会2009」を開催117名の参加者で会場は熱気があふれていました。(開催の様様をダイジェストでお伝えします)

開会宣言後、主催者および来賓挨拶に続き、基調講演と活動事例発表が行われました。

基調講演には、川口市レジ袋の大幅削減に向けた取組をテーマに川口市環境部廃棄物対策課 課長 渡辺洋一氏を迎えました。

川口では埼玉県からのレジ袋有料化実験のモデル地区の協力依頼にもとづき、レジ袋の有料化実験事業に取組み、20年7月30日に、市内スーパーマーケット12事業者、市民団体5団体、川口市の三者で、レジ袋の大幅削減について協定を締結しました。

最終処分場を所有しない川口市にとっての



埼玉県環境部  
資源循環推進課  
田中義彦課長



埼玉エコ・リサ  
イクル連絡会  
石川恵輪副会長



日本 JC 埼玉ブ  
ロック協議会  
大澤 季会長

### 主催者・来賓紹介

ごみ削減は交流集会のテーマでもある、3Rの中でリデュースが最も大切で、その推進のため、政策として掲げたグリーンコンシューマー育成が進まないと言う課題もありました。

協議の中では事業者から「レジ袋の有料化」ではなく、「レジ袋無料配布中止」に、また、「川口市内で全事業者が一斉に行うことができない以上、無料配布店に消費者が流れ売り上げが落ちてしまうリスクについての市の考えを聞きたい。」などの意見が多くありました。

2ページへつづく→

### 資源循環推進課コーナー

埼玉県では、ワンウェイ容器のごみの発生を抑制するため、誰もができる身近な取組として、繰り返し使えるマイボトルの利用を県民に呼びかけています。

さまざまなイベント会場や県のホームページで賛同者に「マイボトル宣言」に協力してもらっています。是非皆様も御協力ください！！

また、この取組のモデル事業として、昨年10月からさいたま新都心地区のコーヒーショップの協力を得て、マイボトル(タンブラー)の持参者にコーヒーを提供(※店舗によっては割引あり)する普及キャンペーンを行っています。

ペットボトルの年間販売量を500mlサイズに換算すると、その数は200億本以上(1人あたり160本)になります。これを全部並べると、その長さは約4百万キロメートル。地球を100周する長さになります。

#### マイボトル宣言とは

マイボトルを使用する意味を御理解いただき、積極的にマイボトルを利用するとして、宣言してもらいます。宣言内容は、

「私は、積極的にマイボトルを使用し、地球に優しい生活を心がけます。」



マイボトル宣言した子供たち



市民から市民への啓発と行政から市民への啓発には大きな違いがあることを事業を始める前に考えました。また、店頭キャンペーン「川口市民レジ袋減らし隊」を結成、実施店舗を市民と行政が協働しサポートしていく事、ゼロからのスタートとしての川口方式の資料づくりをあげられました。

## 活動事例発表

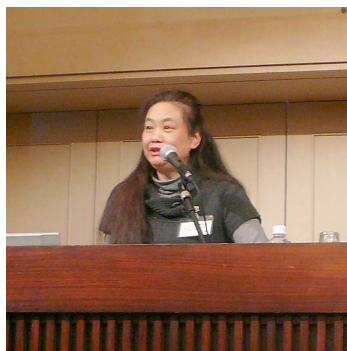
### 生ごみ問題 真の協働を目指して

青空の下で 生ごみ研究会あさか

《なごみ農園》代表 野口久美子氏

活動のはじめは、H12年に朝霞市清掃業務課から、「助成金での生ごみ処理機で、処理したものの後始末の問い合わせが多数あり、堆肥を作る場所をひきうけてくれないか」という相談でした。市が実験農場として畑を借り上げ、H14年9月に「朝霞市生ごみ等減量・資源化研究会」が「市の事業」として発足しました。畑を借りてから5年たち、H18年3月に「活動報告書」を作成、市長にご報告したところ「だいじなことから続けてください。」と担当課に指示されました。しかし、その年の11月に担当課から急に「いろいろな都合で事業を終了します。」と告げられ、1年間の猶予の後、H20年3月に「一定の成果をみたので、市事業としては終了」となりました。市民としては、生ごみ類減量の重大さに気づいており、自分たちで費用を出し合って、H20年1月「青空の下で」を立ち上げ、2年目に入ったところです。

生ごみは、各自落葉堆肥と混ぜてコンポスターに投入します。落葉堆肥とコンポスターの生ごみと米ヌカをサンドイッチにして、1年



ほど寝かせます。その堆肥で野菜作りをしています。また、啓発事業もたくさんしています。

「生ごみは宝」というところと「協働」というところで、共通意識がとても大切だと考えております。消費者市民には政策提言をしていける勇気を持ちましょう、と私は呼びかけたいと思っています。国、県、市町村、企業、消費者全ての方が「地球人」です。力を合わせて、手をたずさえて真の協働で解決しましょう！！

### 安行四季彩マットの屋上緑化

安行造園(株) 本社緑産課 齊藤奈美子氏

安行四季彩マットは、屋上緑化、ベランダガーデンに適した新しい形のユニット式植栽マットです。

屋上緑化で重要な注意点は、風、漏水、重量の3点だそうです。

風については風速30mの実験施設で問題なく、実際の施工例でも今のところ問題ないそうです。漏水については、現地確認をして必要な対応をし、重量については、わずか5cm~15cmの薄い基盤であり建物に負担をかけない軽さということです。50cm四方のユニット式ですので施工や撤去が簡単にできることが特徴です。

もう一つの特徴は、マットの下に保水マットを敷き保水性を保っていますが、そのマットに故繊維が利用されています。



施工例としては、埼玉会館2階の広場、川口そごうの屋上などがあります。

この四季彩マットは石油製品のポリプロピレン繊維を利用しています。

ペットボトルの再生品を試作しましたが、基盤の弱い製品になってしまいました。

できれば再生品を利用して、何回でも使いたいと考えているようですので、良いアイデ

ア、関係業者さんがありましたらご紹介してください。

### 生ごみの堆肥化による野菜作り活動

かわごえ環境ネット理事 原嶋昇治氏

生ごみは、燃やすべきではない。自分で野菜を作るなら身体に優しい有機野菜を作りたい。こんな考えで始め、輪を広げたいと活動をしている。



水分を多量に含んでいる生ごみを焼却場で燃やすには、火力の強いプラスチック類や多くの助燃材が必要であり、CO<sub>2</sub>や地球温暖化の問題も発生する。生ごみは、上手く土に戻せば良い有機肥料になる。また、現在多くの農家では、人手不足、作業の効率向上等の面から、化学肥料、除草剤、殺虫剤等を使った野菜作りが行われており、この様にして作られた野菜は、決して身体に優しいものとは云い難い。

生ごみの堆肥化については、全国の多くの市町村で取組がなされてきており、家庭菜園レベルでは、個人活動として、発泡スチロールの箱を用いた堆肥化、EM のバケツを用いた堆肥化等で有機野菜作りの堆肥として活用している。これらの個人活動から、グループ活動に広げ、集団処理、地域処理へ広げることとは可能であるが、多くても数百軒止まりとなってしまう。更に規模を拡大するには、首長（市町村長）、行政（担当部門）、市民の三者が一体となった取組へ拡大することが必須である。そのような中、全国的には、4,000～6,000 世帯の生ごみを収集処理している市町村が出てきている。

これらのケースの特徴としては、

- ①市民グループの活動が活発で、行政を動かしたこと
- ②市町村長の決意に基づき、行政の担当部門が活発に活動したこと
- ③市町村で循環型社会づくりの一環として大

きく取り上げ、取り組んだこと等が挙げられる。

2 年程前に「有機農業推進法」が制定され、農家の考え方も慣行農法から有機農法へ徐々に進みつつあり、資源循環型への転換機運が高まれば、【生ごみ—堆肥化—有機栽培—有機食品】のサイクルが出来てくるのではないだろうか。これらの実現には、まだまだ創意と工夫が必要になるだろうが、いつかは全国的な取組に展開されることを願いつつ、取組を続けたいと思っている。

### 意見交換

#### 川口市のレジ袋削減の取り組み

4 人の方から渡辺課長への賛辞と激励の言葉が述べられ、同時に、ご自分の市町村が取り組もうとしないという嘆きも出ました。渡辺課長は「市民団体の方の熱意を受けて、事業者さんがレジ袋無料の中止に踏み切られた」ということを強調され、また行政の難しい立場、困難な経済状況で脱落する店舗が増えることへの懸念を語っておられました。

#### 生ゴミ堆肥化

都市部での生ゴミ堆肥化の方法についての質問に対し、一時処理として段ボール堆肥をお勧めする（野口さん）、電動ゴミ処理機でまず処理を（原嶋さん）とのお答え。司会者からエコ・リサHPの資源循環委員会の段ボール堆肥づくりの紹介がありました。

#### 屋上緑化

漏水の危険性についての質問に対して、今までの傾向と問題点、現在とられている様々な防水方法の説明がありました。積載荷重、防根シートなど専門用語を駆使しての懇切なお話でした。一般住宅への施工の可能性、耐用年数等については県の十年以上の研究とも合わせての成果の説明がありました。短い時間でしたが、参加者の知りたいこと、述べたいことが出て有意義でした。

エコ・リサイクル交流集会2009報告書は  
エコ・リサのホームページからご覧いただけます。

<http://www.townnavi.info/eco-risa/>

## 地中(土中)埋設型コンポスターの使い方

資源循環委員会 原田 史

我が家の狭い庭で12年以上使用している地中埋設型コンポスター2基です。地中型とも土中埋設型とも呼ぶようです。とにかく扱いが簡単で、生ゴミを焼却炉で燃やしたくないがマメでない人向きに絶好のツールです。蓋のみ見えていて目立ちません。



塀ぎわの木の下で、陰になっている所に設置してあります。日当たりの良い所がベストですが。



上の土を除き蓋をとった状態  
(中は空っぽ)



蓋をしたところ



周りに土をかけた普段の姿

### 形状・材質：

直径約70cm、深さ約70cmです。

直径約20cmの蓋、その下に網目状の上部、その下に垂直な網目状の側面部の3つの部分で成り立っているプラスチック製品です。底面部はありません。

2基設置する必要はなく、一杯になったら引き抜いて別の穴に設置するやり方でも同じ結果を得られます。(臭い除け、視線除けの内蓋は外してしまいました)

### 使用法：

3～4人家族で一方のコンポスターに生ゴミを投入して約一年で一杯になると、もう一つの方に入れ始めて、その間の約一年は初めのコンポスターの熟成期間ということになります。家族数や食事状況の変動に応じて、投入終了までの期間は11か月～14か月と幅があります。

かなりいい加減な使い方、長期間にわたり、ただ投入をしてきましたが、臭い、虫などに困ると草、土、ぬか、その他の資材

を適当に投入してしのいできました。水分は下に抜けるので、あまり神経質になる必要はないようです。

### 現状：

この一年間は季節を問わず、生ゴミを投入する度に土を入れて少し混ぜ合わせる、或いは上に掛けるなどするようになり、臭いも抑えられるし、発酵の兆候も時々見られるなど、以前に比べて使用法が進化したと思っています。コンポスターの傍らに土、落ち葉、枯草など置いておくとすぐに投入できて便利です。

下の写真はぎりぎりまで生ゴミを入れた状態ですが、一年間置くと20cmから30cm下がります。



### 堆肥（土壌改良剤）の使い道：

熟成したら蓋、上部を取って掘り出します。



以前は冬にパンジーをプランターへ植え付けるのに使っていました

が、その用途は少なくなったので、掘り出したら保管しておき、年間を通してその他の鉢植えなどの用土として使ってきました。

一年余り前から屋上、2階ベランダでのプランターによる野菜栽培に使うようになりました。



平成 19 年 10 月

小松菜の芽が出てきたところ

### 私なりの感想：

- ・我が家ではこのコンポスター（エコロ社製「エコロエース」）が壊れるまで使いますが、これから使ってみようという方には他社の小型の物をお勧めします。設置（穴掘り）も管理（土出し）も楽でしょう。※調べたところ、エコロエースは販売中止です。現在、購入可能な広田産業（株）商品名「ミラコンポ」は4個1セット 15,000円  
問い合わせ先：poly@hirota-sangyo.com
  - ・コンポスターを買わないで同様の効果を上げるやり方は、「資源循環委員会」の「減量・資源化ノウハウ」の「土壌混合法」をご参照ください。
2009. 2. 23



平成 20 年 7 月末 夏野菜収穫

## 2009定期総会開催のご案内

日時 2009年5月23日（土）  
午後1：30～4：30（受付1：15～）  
会場 大宮ソニックシティビル705号室

総会議案書・プログラム  
は後日郵送いたします。  
同封の出欠/委任状は期  
日までに返信願います

### プログラム

- 1：開会 1：30～2：50
- 2：総会議事  
2008年度の事業報告・会計報告  
2009年度の事業計画（案）・予算（案）、その他
- 3：記念講演 3：00～4：30  
テーマ「廃棄物に関する法制度見直しの動向」  
講師  
関東地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課課長 坂口芳輝氏

20年10月30日に行われた川口市レジ袋削減シンポジウムに参加した。

川口市では11月10日「川口の日」より主なスーパーでのレジ袋無料配布を中止する。そのキャンペーンを兼ねて川口市民ホールでシンポジウムが開催された。

会場は500人定員であるが、立ち見の人が出る状況で満杯だった。

## 1. 市長挨拶と基調講演

川口市長岡村幸四郎氏より挨拶と共に基調講演が行われた。

埼玉県では川口市が率先してレジ袋の削減を行うが、これが成功するか失敗するかは今後全国のレジ袋削減運動に大きく影響するので、是非成功するよう市民の協力をお願いしたい。との挨拶の後、自ら温暖化問題の重要性と川口市のごみ問題について約40分間の基調講演を行った。内容はかなり専門的なもので、市長がよくここまで勉強されたものだ、と感銘を受けた。

## 2. レジ袋無料配布中止の協定

この協定に参加したスーパーは、川口市内の12社20店舗である。また、協定に参加した市民団体は5団体で、市は川口市廃棄物対策課長名の印を押してあった。

## 3. パネルディスカッションの概要

**テーマ:川口から始める古くて新しい買い物の形  
~マイバッグとレジ袋を考える~**

### 【コーディネーター】

島崎裕子氏：ジャーナリスト・環境カウンセラー

### 【パネリスト】

上山静一氏：イオンリテール(株)常務取締役  
環境・社会貢献担当

立石幸子氏：川口市婦人団体連絡協議会会長

深野元之氏：(社)全国都市清掃会議調査普及部長

渡辺洋一氏：川口市環境部廃棄物対策課長

イオンリテールからは、数年前、横浜でマルエツが単独でレジ袋の無料配布をやめたところ売り上げが20%下がり、取締役会で問題になったため、今回もマルエツさんは協定に難色を示したが、市内全部で行うので、是非参加して欲しいと説得しやっとなつていただいた、との話と共に、市民の皆様がグリーン購入に徹して、環境に配慮した店をぜひ支援して欲しい。との発言があった。

婦人団体からは、環境に配慮した店を支援して行こう、とのアピールがあり、全国清掃会議からは、レジ袋だけでなく、容器包装に関しても減らすよう努力する必要性を述べていた。市からは、この活動は行政だけではどうにもならないので、ぜひ市民の皆様のご協力をお願いしたい、旨の説明があった。

## 4. 具体的なレジ袋削減キャンペーン

質問、意見交換の時間に、土淵より、「5つの市民団体との協定があるが、環境問題に熱意のある人は10%くらいしかいない。あとの90%の無関心層をどのように説得するのか」と質問した。それに関しては、婦人団体代表より、11月10日以降11日間、朝10時から午後8時まで、各2時間ずつの組みになり、スーパーの出入り口で協力要請のビラ配りを行う。ビラ配りの参加者は延べ1,700名になる、との返事があった。

また、隣に座っていた方より、「ビラ配りは環境市民団体の方達のほかに、各町会に平均3名のクリーン活動推進員がいるので、その方たちに協力してもらおうよう、市から要請がある」とのことだった。

## キーワードは「夢」

社団法人日本青年会議所 関東地区  
埼玉ブロック協議会 第42代会長

大澤 希

日頃は、県内各地の青年会議所の活動にご理解・ご協力を賜りましてありがとうございます。

また、エコ・リサイクルという環境分野において、各々が『できることから始めよう』『できることから広めよう』という使命感をもって取り組んでいただいていることに敬意を表します。

本年度埼玉ブロック協議会では、この国、この地域に生きる人として何ができるかという『人としての使命感』と向き合い、未来の子ども達にバトンを渡せるような地に足をつけた活動に取り組んで参ります。

5月17日には、入間市の武蔵野音楽大学において『埼玉ブロック会員大会』を『大きな夢のはじまり』をテーマに開催いたします。このイベントは、『夢』をキーワードに、夢の実現や、夢に向かって生きる素晴らしさを体感し、その心を音楽でつないでいくイベントとなります。もちろん、環境に配慮したエコ・イベントとして、『マイ箸運動』や『ゴミの削減』を掲げ、環境ブースの出店なども行う予定です。

結びに、『誰かがやってくれるだろう』で済んでいた時代から『自分に何ができるか』を考えていなければならない時代であることに間違いありません。そこに気がついた一人として、自らの行動を変えていきたいと思えます。

皆様と共に、子ども達の未来へ、そして、未来の子ども達へ、バトンを渡して参りましょう。

## 埼玉中央青年会議所イベント情報！ エコアクション2009

市民一人ひとりに今の地球を知ってもらうことで、  
環境保護を考える仲間を増やし  
地域を我が家と思える愛着を持って貰うことを考え、  
今回エコアクション2009を開催いたします。

2009年

4月25日(土)

会場:ホテルプリランテ武蔵野

### 第1部 こども環境クイズ選手権

9:00~11:05

出場者  
募集!!

小学校新4年生から新6年生の3人一組で参加できます。  
環境に関するクイズでエコファーマスターをめざしましょう！ 1位から3位のチームには、メダル・記念品を贈呈します。決勝戦では石原良純さんとの対戦があるかも!?

### 第2部 特別講演 講師 石原良純氏

11:10~11:50

テーマ「空から学ぶ地球環境問題」

\*参加希望の方は往復はがきに、ご住所・ご連絡先・ご氏名をご記入の上、4月6日までに(社)埼玉中央青年会議所事務局に郵送ください。厳正な抽選の上、当選者にはご通知いたします。  
郵送先：〒330-8669 さいたま市大宮区桜木町 1-7-5 ソニックシティビル B1 私書箱 66

ホームページ協賛 <2008年4月～2009年3月>

TOKYO GAS <http://www.tokyo-gas.co.jp/area/saitama/> ウエス屋 <http://www.uesuya.com/>  
ゴトグループ <http://www.510goto.co.jp/index.htm> ㈱ショーモン <http://www.shomon.co.jp/>  
産 廃 上 手 <http://www.ntt-me.co.jp/sanpai-jaws/> 彩の国リサイクルデータバン  
<http://www.fuyo-hin.com/>  
(株)読売旅行春日部営業所：春日部市 <http://kasukabe.yomiuri-ryokou.co.jp/cat472657/index.html>  
税理士法人T&Mソリューション：草加市 <http://www.consultant.co.jp/>  
㈱珍来総本店 [http://www.chinrai.co.jp/chinrai\\_main.html](http://www.chinrai.co.jp/chinrai_main.html)  
パレットモールHOP100 彩 <http://www.hop100.com/> タウンナビ埼玉 <http://www.townnavi.info/saitama/>  
(社)日本青年会議所 関東地区埼玉ブロック協議会 <http://necco.info/> 順不同 ご支援ありがとうございます。

＝  
\*\*エコ・リサ会員の方にエコ・リサ通信の今後の配信方法についてお尋ねします。\*\*  
事務作業、省コストの点からmailのみの配信で構わない場合は  
ecorisa-npo@fuyo-hin.com まで「エコ・リサ通信mail配信希望」として氏名・  
アドレスをお願いします。  
＝ ＝

## エコ・リサ 入会のご案内

NPO法人埼玉エコ・リサイクル連絡会は、幅広い環境保全型のリサイクル活動を、市民団体だけでなく、製造・流通・再生資源などの事業者、各種団体・個人が参加し、県や市町村行政とも、ネットワークを創ってすすめています。

会費(年間) 個人会員 3,000円  
                  団体会員 5,000円  
                  賛助会員 10,000円 (1口)  
協賛バナー登録 50,000円 (年間)

### \* 振込み先・会費納入の際のご注意

郵便振替口座番号 00110-7-764571  
加入者名 NPO 法人埼玉エコ・リサイクル連絡会  
埼玉りそな銀行 大宮支店 普通 5392559  
名義 特定非営利活動法人 埼玉エコ・リサイクル  
連絡会

郵便振替で入金される方は、お手数ですが  
通信欄に新規会員あるいは〇〇会員□□年  
度分と明記の上、お振り込みをお願いいたし  
ます。(事務局)

## 事務所のご案内

〒330-0846

さいたま市大宮区大門町3-205新井ビル303号

(事務員は常駐しておりません、お問合せはFAX・メールをお願いします。)

FAX 048-642-6163 mail: ecorisa-npo@fuyo-hin.com

## 編集後記

今年度もすべての事業が終わり、通信66号が皆様のお手元に届く頃は桜が見頃なのではないでしょうか！

エコ・リサイクル交流集会報告や総会・イベント情報など盛り沢山の通信となりました。

ホームページにも情報など掲載していますので、是非ご覧下さい。宮田  
<http://www.townnavi.info/eco-riisa/>